

執筆要領

1. 報文原稿はワードプロセッサ（マイクロソフトワードを推奨）の使用を原則とする。
 - a) A4サイズの用紙に1頁あたり25字×24行で記述する。
 - b) 用紙の上下左右に約3cmの余白をとる。
 - c) 本文は明朝体、見出しはゴシック体を用いる。
 - d) 本文中のアルファベット、記号および算用数字は半角文字で記述する。
 - e) 本文中の句読点は、「.」「,」を用いる。和文中の句読点および括弧、コロン等の記号は全角で記述する。
 - f) 原稿は、表題、図表を含め1個のファイルにし、ファイル名は「筆頭著者名.拡張子」とする。同一著者が複数の報文を提出する際は、著者名の後ろに番号を付ける。
 - g) ファイルサイズは3メガバイト以下とする。

2. 報文原稿は次の要領により記述する。
 - a) 報文の長さは刷り上がり3頁以内を原則とする。
 - b) 原稿には、第1頁に和文表題と著者名、英文の表題と著者名および著者の所属機関名を記載する。第一著者のみ英文の所属機関名と所在地を記載する。
 - c) 第2頁に和文あるいは英文の摘要を記述する。摘要の長さは刷り上がりで10行（和文で約400字）以下とする。摘要の下に改行して、英文でキーワードを記載する。
 - d) 第3頁以降に、本文と引用文献を記載する。そのあとにA4サイズの用紙に図（写真を含む）、表を添え、これら全ての下に通し頁をつける。
 - e) 図表以外の原稿の左余白に通し行番号を付ける。

3. 表題
 - a) 簡潔でかつ内容を的確に表しているものとする。
 - b) 続報の場合、主題は前報と一致させる。英文の表題は、単語の頭文字は大文字で記述する。ただし冠詞、前置詞、接続詞および代名詞は小文字で記述する。学名は属名のみ頭文字を大文字で記述し、命名者名は記さない。

4. 著者名

和文著者名は、姓または名が1文字の場合、姓と名の間を1字あける。英文著者名は、名・姓の順に名は頭文字のみ大文字、姓は全て大文字で記載する。

例) Taro KITAMOTO

5. キーワード

キーワードは英語で3～6件とし、**Key words:** に続いてアルファベット順に小文字で記述する。学名、地名のはじめの文字、略称等は大文字で記述する。ただし、学名等例外的な記述法が慣例化しているものに

ついてはこの限りではない。

例) キーワードが 4 件の場合

Key words: bacteria, *Chilo suppressalis*, IPM, paddy field

6. 所属機関および所在地

- a) 所属機関名は正式名称での記述を原則とするが、混乱が生じない範囲であれば略称の使用も可とする。「農林水産省」など国の所属機関の省庁名は入れない。都道府県の所属機関のうち、県庁等については「庁」を付けず県名、部署名を記載し(例:北海道農政部),試験場所は場所名のみ(例:青森県産業技術センター農林総合研究所)を記す。大学は大学名および学部等の部署名を記載する。
- b) 著者の所属機関は、著者名の右肩に上付数字(1,2,3,...)を付け、対応する所属機関名の冒頭に片括弧付きで同じ数字を記して示す(例:農林太郎¹, 1) 農研機構東北農業研究センター)。著者が複数いる場合、責任著者名に上付きアスタリスク(*)を付けて「責任著者(Corresponding Author)」と記す。第1著者・責任著者については、英文での所属名・所在地の記載も行う。責任著者については、メールアドレスの記載も行う。
- c) 転出後の所属機関を記載する場合も、上記 b) に準じて上付き数字で記載・対応付けを行い、「現在:岩手県農業研究センター」のように記載する。
- d) 英文の所属機関名および所在地について、県名と市名が同じ場合は県名を省略する。

例: 農林太郎¹・北日本花子^{2,3}・盛岡次郎²・大仙三郎^{1,4,*}

【以下、脚注部の記述】

- 1) 農研機構東北農業研究センター

NARO Tohoku Agricultural Research Center, Morioka, Iwate 020-0198, Japan

- 2) X 県農業試験場

- 3) 現在: X 県農政部

- 4) 現在: 岩手大学農学部

- *) 責任著者 (Corresponding Author)

Faculty of Agriculture, Iwate University, Morioka, Iwate 020-XXXX, Japan

northjapan7@kitanihon.go.jp

7. 本文

- a) 数字は算用数字、動植物名はカタカナ、年号は西暦、漢字は常用漢字で記述する。同一報文内では送り仮名や用語を統一する。
- b) 学名はイタリックとする。sp., spp., var. はイタリックとしない。
- c) 学名は本文中の初出のみ略さずに記載する。ただし、学名の命名者は原則として記載しない。
- d) 本文中の病害名および害虫名等の初出のあとには、その原因となる病原体あるいは昆虫等の学名を記載する。なお、病害名および害虫名は原則として最新の日本植物病名目録(日本植物病理学会編)、応用動物学・応用昆虫学学術用語集あるいは農林有害動物・昆虫名鑑(日本応用動物昆虫学会編)、日本昆虫

目録（日本昆虫目録編集委員会編）に従う。

- e) 見出しはゴシックとし、行の中央に記述する。小見出しもゴシック指定にし、全角の算用数字の番号、ピリオド、小見出しの順に左詰めで記述する。
- f) 本文、図表ともに数値には3桁ごとにコンマを入れる。
- g) 農薬名は本文、図表ともに原則として一般名を用いる。
- h) 本文中の図表の指示は、図表が和文の場合は第1図、第1表、英文の場合は Fig. 1, Table 1 のように記述する。
- i) 単位は以下の例によるほか、原則として国際単位系（SI）を用いる。数字と単位記号の間には半角スペースを挿入する。

長さ: km, m, cm, mm, μm (μ : ミクロン は使用しない)

面積: $\text{km}^2, \text{m}^2, \text{cm}^2$ など (a, ha は使用してもよい)

容積: kL, L (英文中では liter(s) とし, “L” としない) , mL, μL など

体積: $\text{km}^3, \text{m}^3, \text{cm}^3$ (cc は使用しない) , mm^3 など

重量: kg, g, mg, μg , ng, pg など (t は使用してもよい)

時間: 秒, 分, 時間, 日など (英文中では s, min, h, day(s), week(s), month(s), year(s) など)

濃度: M, mM, μM , N, % (数字を伴う時および図表中のみ) , g/L, mg/L, $\mu\text{g/mL}$, ppm, ppb

温度: $^{\circ}\text{C}$

重力: $\times\text{g}$

その他: 同位元素 ^{32}P , 放射線量 Bq, 酸化還元電位 rH, 水素イオン濃度 pH.

- j) 図表の挿入場所は本文右欄外に赤字で記入する。
- k) 本文中での文献の引用は、文末に括弧を付けて引用文献番号を記すか、著者名を挙げてそのあとに引用文献番号を記載する。後者の場合は、共著者が2名の場合は全員を、3名以上の場合は第1著者に「ら」あるいは「et al.」を付けて他を省略する。

例) 古田・関口 (1) は,

平野ら (2) によると,

Takematsu and Ichitani (3) は,

Sone et al. (4) は,

8. 引用文献

- a) 引用文献のリストには本文中に引用した文献を必ず記載する。引用されていない文献は挙げない。
- b) 番号は 1), 2), 15) のように片括弧を用い、1桁の場合は全角数字で、2桁以上の場合は半角数字で記す。
- c) 第1著者名のABC順に配列し、著者名は全員を記載する。第1著者が同じ文献を複数引用する場合は以下の例に従って記載する。

例) 1) Parker, G. H. (1945) ----- 同一著者の文献は共著のものの前に年号順.

2) Parker, G. H. (1950)

- 3) Parker, G. H. (1956a) ----- 同じ年の 2 つ以上の文献には a, b, c, . . . を
- 4) Parker, G. H. (1956b) 本文に出た順につける.
- 5) Parker, G. H. and Taylor, A. (1955) ----- 著者が 2 人の場合, 第 2 著者の
- 6) Parker, G. H. and Wilson, C. (1950) ABC 順.
- 7) Parker, G. H., Meyer, B and Nelson, S. (1969) ----- 著者が 3 人の場合,
- 8) Parker, G. H., Meyer, B and Nelson, S. (1972) 著者 2 人の論文の後に
- 9) Parker, G. H., Nelson, S and Dale, A. (1970) まず第 2 著者, 次に
- 10) Parker, G. H., Nelson, S and Mayer, B. (1973) 第 3 著者の ABC 順.
- d) 雑誌名は 1 語のときには省略しない (例: Nature, Phytopathology 等). 略記する場合は, 和文誌は日本自然科学雑誌総覧, 日本農学進歩年報, 欧文誌は World List of Scientific Periodicals, Biological Abstracts, Chemical Abstracts, Index Medicus に従う.
- e) 引用文献は以下のように記す.
- 古川勝弘・江部成彦・田中文夫 (1997) 北海道十勝地方における 1996 年のインゲンマメ黄化病の多発生. 北日本病虫研報 48: 75-79.
- Miller, W. A., Dinesh-Kumar, S. P. and Paol, C. P. (1995) Luteovirus gene expression. Crit. Rev. Plant Sci. 14: 179-211.
- f) 単行本は次のように引用する.
- 岡本 弘 (1962) 植物病理実験法 (明日山秀文ほか編), 日本植物防疫協会, 東京, pp. 301-304.
- 引用ページ数が 1 頁の場合は p. 123 のように記述する. また, 全体を引用する場合は 540pp. のように記述する.
- ダニレフスキー, ア・エス (1961) [日高敏隆・正木進三 訳, 1966] 昆虫の光周性, 東大出版会, 東京, 293pp.
- 訳者は [] の中に記す.
- 桐谷圭治・中筋房夫 (1976) 害虫とたたかう: 防除から管理へ, 日本放送出版協会, 東京, 229pp.
- 副題は: の後に記す.
- Ellingboe, A.H. (1995) Molecular Aspects of Pathogenicity and Resistance (Mills, D., Kunoh, H., Keen, N. T. and Mayama, S. eds.). APS Press, St. Paul, pp. 33-46.
- 編者は()の中に記す.
- g) 講演要旨を引用する場合は, 最後に (講要) あるいは (Abstr.) と明記する.

9. 図表

- a) 表はその説明とともに 1 表ずつ A4 の用紙に書く.
- b) 表には縦罫を入れない. 横罫は一本線とする. 極端な横長や縦長は避ける.
- c) 表の表題は表の上に記載し, 表題の文末にはピリオドを付けないが, 注釈の文末にはピリオドを付ける.
- d) 表に注釈をする場合は, 表中の関連語句に a), b), c), . . . 等の上付文字を付け, 表の下に注釈文を記述する. 注釈文の a), b), c), . . . 等は上付文字にしない.

- e) 図は刷り上がりの約 2 倍の大きさに、1 図ずつ A4 の用紙に描く。表計算ソフトウェアや作図ソフトウェアを用いて作成した図を原稿ファイルに貼り付ける場合は、正しく表示される形式を選択する。
- f) 図の表題と説明は原図の下に記載する。和文の場合は、表題の文末にはピリオドをつけない。説明は表題から改行して記述し、文末にピリオドを付ける。英文の場合は、表題および説明を同じ行に続けて記述し、文末にはピリオドを付ける。
- g) 写真は、編集者および校閲者が査読可能で、かつファイルサイズが超過しないよう適宜縮小し、1 ページに 1 図となるようレイアウトする。最終原稿ファイルの提出時に、元の画像ファイルを別途提出する場合がある。図中の文字は、明朝体を使用する。
- h) 図表と写真は、出版される場合に予定している色（モノクロまたはカラー）で準備の上、投稿する。

10. 電子付録

- a) 電子付録は、冊子体には掲載されないが、J-STAGE において報文とともに web 上に公開される。
- b) 電子付録は、補足資料（報文本体記載の図表に関する具体的数値、気象データ、統計量、試験区割の図、病虫害や実験装置の写真等）であり、報文内に含めるべき内容を掲載することはできない。
- c) 電子付録の査読において、通常は「受理／却下／報文本体への掲載が妥当」の 3 点で判断され、内容については著者が責任を持つ。報文受理後の修正は受け付けない。
- d) 電子付録では、図表等をまとめて 1 つの PDF ファイルを作成する。ページ数や様式に制限はないが、各図表の説明を PDF ファイル中に記載する。ファイルサイズの上限は 5 メガバイトとする。
- e) 電子付録記載内容の報文本文における指示は、和文の場合は第 1 付図、第 1 付表、英文の場合は Fig. S1, Table S1 のように記述する。
- f) 電子付録を利用する報文については、本文の「考察」の後「引用文献」の前に「電子付録」または「Supplementary information」という項目を追加して、「付図表は J-STAGE の Web サイトから利用可能である。」または「Supplementary information is available at J-STAGE's website.」のような一文を追加する。
- g) 電子付録のファイル名は「筆頭著者名付図.pdf」または「筆頭著者名付表.pdf」（図表両方含む場合は「筆頭著者名付図表.pdf」）等とする。

付則 本要領は 2015 年 2 月 19 日より施行する。

付則 本要領は 2016 年 2 月 25 日より一部改定して施行する。

付則 本要領は 2018 年 2 月 15 日より一部改定して施行する。

付則 本要領は 2020 年 2 月 20 日より一部改定して施行する。

付則 本要領は 2021 年 3 月 22 日より一部改定して施行する。